

## (5)「現代社会」(2年)について

### <目標>

身近な地域の実態や諸課題を研究し考察することで、現代の日本や世界で起こっている諸課題について主体的に学習し、その課題解決を考察する。また、奈良T I M Eのフィールドワークと連携しながら地域の課題を研究・考察し、情報収集の方法や研究の進め方、プレゼンテーション力の向上を図る。

現代の社会において、ローカルな課題は見方を変えるとグローバルな課題でもある。ローカルからグローバルに考えたり、グローバルな課題をローカルに展開したりする姿勢を身につけさせる。

また、国連が提唱するSDG s(持続可能な開発目標)についても学習し、自分たちが取り組む課題がSDG sのどの分野に当たるものなのかを意識して取り組ませた。

### <内容>

#### 〔1〕年間計画

昨年度の「現代へのあゆみ」においては、現代の世界や各地域の諸課題が、その歴史的要因から起因することを学習し、諸課題の原因などについて歴史的要因を究明しながら探究していく方法を学習した。

本年度は、昨年度の取り組みをさらに深め、課題の原因やその障壁となっている事項を幅広く追求し、問題解決に至る過程を多角的に分析し、論理的に追究することを目標とした。

まず、1学期前半では、5月に行われた「奈良T I M E」のフィールドワークと連携し、その問題点と課題を検証し、それを自らの課題研究と関連づけて考察した。フィールドワークを通じて、自分の将来の進路に関連した課題を設定し、研究した。

また、1学期後半では、グローバルな課題を探求する糸口として現代の国際社会についての理解を深めるために、民族紛争や地域紛争について、国際政治を軸として学習した。

2学期は、前半でグループでの課題研究に取り組んだ。そのための準備として、夏休み前にグループの編成を行い、それぞれの班ごとに研究テーマを決定した。また、協同作業で研究に取り組むため、各人の調査対象を明確にし、その研究を夏期休業中の課題として取り組み、2学期の初めにレポートとして提出した。授業開始後は、グループで研究活動に取り組み、その課題を1枚紙ポスターにまとめ、クラス内で発表した。

また10月中旬の台湾への海外研修の関連学習として、海外研修後、国際経済の学習を展開した。

3学期は、2学期前半に行ったポスター発表をさらに深化させ、それをパワーポイントで展開しプレゼンテーションを行った。

#### 〔2〕授業の実施方法

生徒が主体的に課題を設定し、その解決に向けての方策を探究すること(課題研究)がこの授業の大きな目標である。その前提として、世界や日本でどのような事が課題となっているかを理解することが必要となる。課題の学習には、その課題の正確な知識や理解が必要となってくる。

そのため、授業では、必要な情報や知識を得るというインプットの学習活動と、得た知識を分析し、解決に向けての方策を考察、表現するというアウトプットの学習活動を展開した。この2つは別々に設定されるものではなく、授業の中で生徒達の理解度を確認しながらも、意見を述べさせるというように相互補完的に展開した。

授業は担当者が課題を提示し、その課題について、現状、原因、解決方法などをペアワークやグループワークを通じて討議し、他者と意見を交えながら深く考えることを目標とした。グループワークなどでは、黒板に掲示できるホワイトボードに意見を書かせて発表させたりもした。

### 〔3〕 単元ごとの取り組み

以下、年間を通じての取り組みのテーマは以下の通りである。

- (1) SDGs とは何？
- (2) 「奈良 TIME」 フィールドワークへの取り組み
- (3) 地域紛争と民族 国家とは何か 以上 1 学期
- (4) 夏期課題の取り組み
- (5) ポスター発表の取り組み
- (6) 国際経済について 以上 2 学期
- (7) パワーポイント プレゼンテーションの取り組み 以上 3 学期

#### <各テーマの取り組み>

##### (1) SDGs とは何？

1年間の授業の導入として、昨今の観光客の大幅な増加が逆に地域住民とのトラブルを起こしているオーバーツーリズムの問題を取り上げ、その社会的背景を考察した。なぜ、そのような問題が起こるのか。問題の解決にはどのような手立てが考えられるのかを個人、その後グループで話し合った。

また社会の急激な変化の中で、100年後には無くなってしまふかもしれないもの、一方で、今後も残ってほしいものを考えさせ、そのために何ができるのかを話し合った。

#### <生徒の反応> と <成果と課題>

「100年後には無くなっていく可能性のあるもの」では、現在の環境、資源、エネルギー、現金など、まさに現代の国際社会が直面している課題について指摘する意見が多かった。

また、「100年後にも残ってほしいもの」では、歴史遺産、自然、平和、人権など、有形・無形様々なものがあがってきたが、生徒の多くが、先人たちによって築かれた遺産を後世に残さなければならないという使命感をもっていることがうかがわれた。

100年という長期スパンでものごとを考えるという経験は、生徒たちもこれまであまりなかったようで、最初はとまどいながらも、グループ内での発表や、クラス内での発表を通じて考えを深化させたようであった。今回の学習を通して、目の先の利益にとらわれた開発では将来性はなく、持続可能な開発でなければ意味がないということを感じとってくれたのではないかと思われる。



※ 上のヒントジャンルを参考に、下記の9つを考えてみよう。

ヒントジャンル: 環境、経済、文化、教育、健康、都市、教育、性別、社会、エネルギー、食料、住居、平等、平和、自然、人権、気候変動、防災、文化、歴史、芸術

A. 100年後には無くなっていくと思われるものは何？

B. いまこどもたちがあつたらいい「何」があるとあなたが思うものは何？

C. 100年後にも残ってほしいなあと思えるものは何？

D. “あつたらいいもの”と“残してほしいもの”を両立させるためにはどうしたらいいと思う？

E. SDGsとあなた自身が「関わりがあるよなな」という例は何がある？

##### (2) 奈良 TIME フィールドワークの取り組み

本校では、2年生の1学期に、校外へのフィールドワークを行っている。大きなテーマは、1. 観光・地域創生 2. 医療・福祉 3. 教育・人権 4. 環境 5. 防災の5つであり、今年度は16個のコースが設定された。生徒は自分の希望のコースを選択して実習に参加

した。

現代社会の授業では、各自が希望したコースについて事前学習を行った。インターネットを利用した調べ学習だけではなく、図書館を利用して書籍や新聞からの情報も活用した。

それぞれが事前に質問や問題点を考えて当日のフィールドワークに臨み、事後にはその成果や新たな疑問点を記入しまとめを行った。

## 2019年度 第2学年 奈良TIME フィールドワーク

No.	講座名	内 容	場 所	想定領域
1	環境にやさしい技術を学ぶ	大和ハウス工業の総合技術研究所での見学ツアーに参加し、環境共生を目的とした研究や、福祉や農業など幅広い課題を解決するための建築技術を学ぶ。	奈良市 大和ハウス工業株式会社 総合技術研究所	②医療・福祉 ④環境 ⑤防災
2	水をつくる	生活の基盤となる「飲み水」はどのようにつくられているか。その現場を知ることで生命や環境について考えるきっかけとする。	御所浄水場 (御所市戸毛)	④環境 ⑤防災
3	地域を支える行政の取組とテクノロジー	県内企業への支援を通して、地域の活性化を目指す様々な研究や事業を行う行政の拠点を見学することにより、科学技術による地域活性化や環境保全の取組や状況などを学ぶ。	奈良県産業振興総合センター (奈良市柏木町)	①観光・地域創生 ⑤防災
4	水を守る	生活や工場で生じた下水はどのようにして自然に帰されるか。その現場を見ることで、生命や環境について考える。	奈良県浄化センター	④環境
5	ブライマイ ～今井町の魅力探索とその発信～	今西家、豊田家などの見学も含めて今井町を散策し、その歴史や魅力を知るとともに、写真も撮影しながらその魅力をどのように発信するのか、観光地としての問題点は何かについて考察する。	今井町一帯 (今西家、豊田家等含む)	①観光・地域創生
6	地域医療の取組	国が進める地域包括ケアシステムを受けて、宇陀市立病院が「住み慣れた場所で住み続けるために」と設置している地域包括ケア病棟の取組や病院施設について学ぶ。	宇陀市立病院	②医療・福祉
7	防災意識を高めるために	火災や救急を担当する消防組合の方から、防災に関する講話をいただいて私たち自身の防災意識を高めるとともに、それをどう広めていくかについて考える機会とする。なお、施設の見学も予定。	奈良県広域消防組合	②医療・福祉 ⑤防災
8	地域福祉とボランティア	地域福祉の取組や現状および、災害ボランティア派遣についてお話を聞き、これからの地域福祉のあり方、高校生にもできるボランティア活動についてワークショップを通して考える。	奈良県社会福祉総合センター	②医療・福祉 ⑤防災
9	万葉の文化に触れる	万葉集に記された言葉や音の美しさを、視覚的・聴覚的に体感し、学ぶ。いにしへの奈良の文化に触れながら、現代の日本や奈良の文化について考察する。	奈良県立万葉文化館	①観光・地域創生
10	神道を学ぶ	神道を中心に日本における宗教文化や日本人の宗教に対する意識を学ぶ。大神神社の神殿などを見学し、神社の管理運営について学ぶ。	桜井市三輪	①観光・歴史 ②国際協力
11	ボランティアガイドさんから学ぼう	世界遺産である唐招提寺または薬師寺に関する歴史や知識だけでなく、ボランティアガイドとして案内された経験等から観光について学ぶ。 ※英語または中国語を用いて、外国人観光客をガイドされている方に来ていただけるようお願いしていますが、当日全てのガイドさんがそうなるとは限りません。	唐招提寺or薬師寺	①観光・地域創生
12	廃校を活かした地域創生	宇陀市菟田野地区の旧宇太小学校を活用して、国際交流や文化体験等を提供する事例から、施設運用、観光事業、地域創生、グローバル事業について具体的に学ぶ。	旧宇太小学校	①観光・地域創生
13	地場産業としての製菓業について学ぶ	三光丸クスリ資料館を見学し、和漢薬、配置薬のしくみ、地場産業としての「大和の菓」の歴史や現状などについて学ぶ。	三光丸クスリ資料館	①地域創生 ②医療・福祉
14	平城宮の木簡 ～文化財研究に触れる～	文化財を総合的に研究するための機関である奈良文化財研究所において学ぶ契機を得る。 ○「木簡」のお話 ○発掘現場の見学 ○整理室の見学 ※このたびは副所長渡辺晃宏先生からレクチャーをいただく。	平城京跡	①観光・地域創生 ④環境
15	水平社博物館フィールドワーク	「水平社博物館」は、水平社発祥の地で、あらゆる差別撤廃に向けた情報発信を目指す施設である。館内見学及び周辺のフィールドワークを通して、差別を許さず差別と闘ってきた先達の精神に学び、自らの人権意識を問い直す機会とする。 ※引率教員は2名必要	水平社博物館	③教育・人権
16	和菓子作り体験	茶道では、お菓子はお茶とともに重要な役割を担う。茶道が盛んな土地では和菓子屋が多数存在し、しのぎを削るかたちで茶道文化を盛り上げてきた。奈良県の和菓子屋である「梅ぞの」から講師に来ていただき、お茶席で用いられる主菓子（おもがし＝上生菓子）作りの実習を通して、茶道文化の一端を学ぶ。	学校の調理室	①観光・地域創生

フィールドワーク後には、事後レポートを提出させた。質問項目の中では、特に、実際にどのような課題や問題点があったのか、またその課題を解決するためには、どのようなことが出来るのかを考えてみよう、という項目を設定し、まとめさせることにより、単に現地の方にお話を聞くだけではなく、事前に自分たちが調べたことと、実際の状況を見ての違いや、またその中で新たに生まれた疑問点や発見を今後の課題研究に生かせるようにした。

### 〈生徒の反応〉と〈成果と課題〉

フィールドワーク参加して、実際に生徒たちが現地に赴き、現場の生の声を聞くことで、ネットや書籍だけでは得られない貴重な経験を通して、より課題について深く理解したようである。また、調査の方法なども多方面からのアプローチに取り組めるようになってきた。

(3) 地域紛争と民族 国家とは何か

現代の諸課題を探究するにあたり、基本的な国際情勢を学習しておくことは必須であると思われる。世界には未だに多くの紛争が絶えず、その理解なしには問題解決の糸口がつかめない。そこで、世界の紛争や民族問題を導入で取り上げ、その後、第2次大戦後の戦後政治の流れを学習した。

ここでもグループ学習の方法を取り、各グループで取り上げてみたい国を3つあげて、それぞれに民族、宗教、言語について調べさせ、発表させた。

その後、アメリカの対イスラエル政策が世界の注目を集めている時期であり、パレスチナ問題に重点を置いて授業を展開した。最後は、戦後の冷戦の過程を復習しながら、核軍縮問題を扱った。

〈生徒の反応〉と〈成果と課題〉

生徒らは冷戦後に誕生した世代であり、表面的な言葉は知っていても当時の状況について具体的に実感する機会は持たずにこれまできた生徒も多く、あわや核戦争にまで発展しかけた時代があったことに改めて驚いていた。今日、再びアメリカ、ロシア間での対立が新たな冷戦に近づきつつある現状に気づき、核廃絶への取り組みがいかに大切なことかを理解できたようであった。

(4) 夏期課題の取り組み

2学期の発表学習に向けて、1学期に取り組んだ学習をもとに課題研究に取り組ませた。

まず、事前に夏休み前にグループを編成し、グループの中で大きな研究テーマを設定させ、各自にそれぞれの具体的な研究課題を設定させた。テーマは国内外を問わず、関心をもっているものを自由に選ばせた。事前の話し合いの中で、各自が責任をもって仕事を分担し、全員の共同発表になるように留意させた。各人のレポート作成は、設定した研究テーマにそって、個人がそれぞれ、奈良県、日本および世界、学問・研究分野

と大きく3つの範疇に分けて、どのような取り組みが行われているのかの現状とそれがどのような課題となっているのかを調査させた。

現代社会 2 <～奈良から世界へ～課題研究のテーマを決定しよう> 2年( )組( )番( )氏名( )

(5) ポスター発表の取り組み

2学期に入り、各自が個々に取り組んだレポートをグループでまとめ、それを一つの研究発表にまとめさせる取り組みを行った。授業はグループ学習を基本とし、まず各人が調べたレポートをグループ内で発表させ、グループとしての具体的な研究方針を策定させる時間をとった。最後は、グループごとにクラス内での発表をすることを目標とし、内容は、1枚のポスターに要約し、そのポスターをもとにグループごとに8分程度の発表を行うことにした。

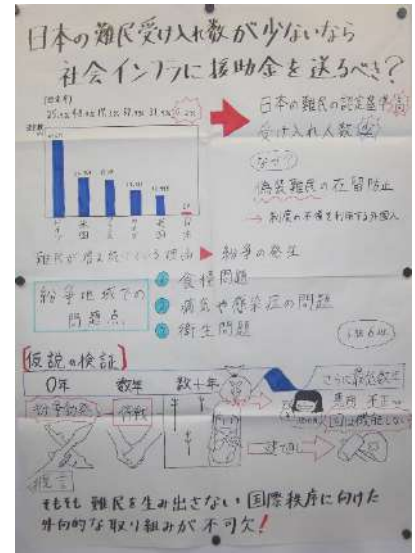
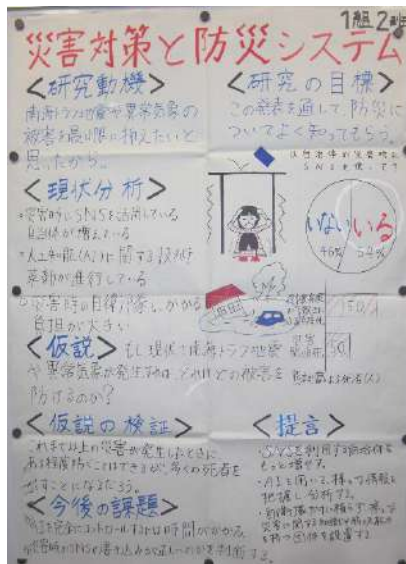
〈生徒の反応〉と〈成果と課題〉  
自分の興味・関心のあるものを研究テーマに設定させたので、意欲を持って取り組んだものが多かった。しかし、長期休暇中のためグループ内でのコミュニケーションがとりづらく、各人のレポートの深みにはかなりの差異がみられた。



クラスでの発表時は、全員に評価シートを持たせ、評価項目ごとに点数の評価とコメントを記載させ、相互評価させた。

〈生徒の反応〉と〈成果と課題〉

グループでの取り組みについては、互いに積極的に意見交換しながら意欲的に取り組んでいたグループが多かった。調べてきたことをできるだけ多く記載しようとして、1枚のポスターに集約することに苦労していた。創意工夫を重ね、取捨選択を繰り返しながら、徐々に端的なポスターにまとめることを学んでいったようである。



項目	評価	コメント
1. 発表の準備		
2. 発表の進行		
3. 発表のまとめ		
4. 発表の振り返り		
5. 発表の感想		
6. 発表の質問		
7. 発表の回答		
8. 発表の総評		

テーマは県内や国内外を問わず、多岐に及び、生徒が社会の多様な問題に関心をもっていることがうかがわれた。テーマによっては、質疑応答で活発な意見が取り交わされ、45分の授業時間では時間が足りなくなることもあった。

相互評価については、皆が真摯な態度で取り組み、客観的な立場から有益なアドバイスを与えている評価表が多く見られた。アドバイスのコメントは各グループにフィードバックし、3学期の発表学習に向けての参考とした。

(6) 国際経済について

2学期の後半は国際経済の理解をテーマとした。2年生は10月に海外研修を実施しているが、今年度ははじめて台湾での研修を行った。はじめて異国の文化を経験した生徒も多く、タイムリーな時期での実施となった。特に夏以来、香港での民主化要求デモが連日ニュースで大きく取り上げられる現状であり、『今日の香港、明日の台湾』の言葉を実感を持ってとらえさせることができた。

内容は、外貨を使った経験をもとに貨幣のはたらきから、外国為替や貿易問題まで発展させ、最後は戦後の国際経済と日本経済の動向について考えさせた。

1学期に学んだ国際政治と共に、国際経済の面においても、ボーダーレスで平和な国際社会を形成することが、人類の最大の課題であることを理解させ、まとめとした。

〈生徒の反応〉と〈成果と課題〉

経済理論については、かなり高度な内容にまで踏み込んだため、生徒の理解にはかなり差が出てしまったようである。一方、関心がある生徒は繰り返し質問にくるなど、経済のしくみに関心を持った生徒も相当数いた。2学期前半でのグループ学習とは対照的に、座学中心の授業となってしまう、生徒の反応を十分活かしきれなかったことが反省である。

(7) パワーポイント・プレゼンテーションの取り組みおよび課題研究発表会について

学年のまとめとして、3学期に各グループの課題研究をもとにパワーポイントを作成し、各クラスでプレゼンテーションを行った。内容は2学期のポスター発表での取り組みをもとに、同様のテーマ

について、さらに問題点を具体的に掘り下げ、その解決策まで提示することを目標とした。

教室での活動はタブレットを各班に配布し、全員分のタブレットが配備されている AL 教室もできるだけ利用してプレゼン資料を作製させた。

資料完成後、各班 8～9 分の時間で、独自のパワーポイントを用いたクラス内発表を行った。発表時には、全員に評価シートを配布し、相互評価させた。評価の項目は、【企画力】【表現力】【調査力・行動力・情報活用力】【創造力】【協働力】の 5 点である。



各クラスでの発表をもとに、2月15日の課題研究発表会で発表を行う学年代表 3 グループを選出した。代表 3 グループのテーマは以下の通りである。

1. 『育休ハッピー計画』
2. 『南海トラフ生存問題の証明』
3. 『教育改革』

発表班はそれぞれ、労働、防災、教育といった、今日社会で大きな関心を持たれている問題をテーマに設定し、その問題点に真摯に取り組み、高校生らしい視点で課題解決への提言を考えた。

課題研究発表会では、多くの聴衆を前に緊張しながらも堂々としたプレゼン発表を行うことができた。発表班以外の生徒も熱心に発表に耳を傾け、質疑応答では活発な意見が飛び交い、その関心の高さをうかがい知ることができた。

#### 〈生徒の反応〉と〈※ 成果と課題〉

生徒はいきいきと自主的に研究活動に取り組んでいた。昨年度も 1 年生でパワーポイントを作成し発表する経験をしてきたが、2 年生になり現状分析や仮説、検証などの項目で、多角的かつ論理的に分析する力がついてきたと思われる。またポスターによるクラス内での中間発表を経験しており、その際に級友から出された疑問点やアドバイスを生かしてパワーポイントを作成したことにより、具体的な提言に向けて、プレゼンテーションの内容がより深まったものになった。



どのような資料を使い、いかに効率的に自分たちの提言をするのかを、何度も話し合いを繰り返しながら一つの発表に仕上げていくためには、高度なコミュニケーション能力も必要とされる。こうした作業は、座学の授業だけでは得られない極めて貴重な経験となった。また、他のグループの発表を聞くなかで、客観的に自分たちの発表を見直し、新たな視点に気づくことも多かった。発表後の質疑応答でも時に問題の核心をつく質問も飛び出すなど、生徒の関心や理解の深さを感じることができた。しかし、まだ自ら発問までできる生徒は限定されており、自主的に自らの考えを人前で発言できる力の養成が今後の課題である。



<生徒への年度末アンケートの結果と今後の課題>

図1から図3は、年度末に生徒を対象に実施したアンケートの結果である。

図1及び図2は、今年度学習した4つのテーマ（A 地元や奈良県の諸問題 B 国際政治 C 国際経済 D ポスター発表・パワーポイントでのプレゼン）について、最も関心が高まったものと、その理解度を答えさせたものである。その結果、「地元や奈良県の諸問題」並びに「ポスター発表やパワーポイントでのプレゼン」に高い関心を持つと共に、理解度も深まった生徒がきわめて多かったことがわかる。特に、ポスターやパワーポイントを用いたプレゼン能力については、飛躍的に力を伸ばした。しかし、「国際政治」と「国際経済」については、関心度は共に10%前後にとどまった。もっとも理解度については一定の成果を収めたと思われ、定期試験では予想以上の結果を残す生徒も現れた。今後、国際問題についても身近な問題であることを自覚させるため、時事問題等も積極的に活用した授業展開が必要だと思われる。

図3では、課題研究を通して身につけた力を確認した。これによると、各項目について概ね期待通りの成果を収めたと思われる。特に、協働力についてはしっかり身についたと自覚できているようで、2学期以降のグループ研究やプレゼン活動の成果だと考えられる。

自ら課題を見出し、協働作業を通じて解決策を考え発表するという体験は、課題研究ならではのものといえる。今回、クラス内発表や課題研究発表会において、多くの聴衆を前に自分たちの意見を主張できた体験は大きな財産となったと思われる。今後さらに、学問の楽しさを知り、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせていきたいと考える。

